

(5 月 19 日改訂)

塾生全員の大幅な学力向上を
ー 2012 年度は全塾生の学力向上必達の年

開倫塾
塾長 林 明夫

《辞書の活用で語彙の強化を》

1. 「理解」の大前提は、「わからない語句」は辞書で調べること、「語句」の意味を「ノート」に記録し、繰り返し復習して「定着」させ、自分のものとして身に付け、日本語の「語彙」を増やすことです。

＊「語彙」とは「ある範囲の、あるいは広く一言語についての語の総体」。(岩波国語辞典、第7版新版)

- (1) 開倫塾の塾生全員に、通塾時には辞書(「国語辞典」と「英和辞典」)を必ず持参するよう指示をして下さい。授業時間中に、必要に応じて辞書を引かせ、「辞書の使い方」を全塾生にたえず教え、意味のわからない語句があったら躊躇することなく、条件反射で辞書をパッと引き、その意味を「ノート」に書き写す「習慣」を身に付けさせて下さい。
- (2) 3 月に実施した学習塾基本調査で、辞書を活用している塾生の多くが学力が向上していることが判明しています。

「わからない語句」に出会う→「辞書」を引く→「書き写す」→「何回も復習して定着させる」
→語彙を増やす

この一連の流れを身に付け、辞書を活用しての語彙の増やし方の手法を自分のものとするのが「自己学習能力育成」の第一歩であることを、自分の担当する塾生全員に「理解」させ、「定着」させて下さい。

- (3) この一連の方法を身に付けさせれば、高校入試は勿論のこと、大学入試も大丈夫です。また、大学や大学院に進学後に「No Study Kids」などと言われることはないと言断できます。社会に出てからも役に立ちます。これは、一生涯役に立つ勉強方法です。

《読書により思慮深さを、新聞を読み自ら考える力、批判的思考能力を》

2. (1) 毎週 1 冊以上の読書をして、心に触れた文章をたとえ一行でも書き写す「書き抜き読書ノート」を作成すること。
- (2) 新聞のコラムや社説をノートに縦書きで一行おきに書き写し、見開きノートの下ページに辞書を用いて調べた語句とその意味を書き写し、そのノートを何度も繰り返して読み返すこと。
- (3) 同時に、新聞記事を切り取り、「NIE(新聞を教育へ)のノート」にのりをつけて貼り付け、自分の意見やコメント、感想を書く「スクラップブック」を毎日作り続けることも、具体的に指導して下さい。
- (4) 「書き抜き読書ノート」や「スクラップブック」は週に 1 回提出させ、コメントを加えてあげて下さい。
- (5) 「読書による思慮深さ」や「新聞を読んで自分で考える力、批判的思考(クリティカルシンキング)能力」を身に付けさせること、「論理的思考能力」や「言語能力」を身に付けさせることは、真の学力増強に直結するからです。
- (6) 但し、人間として最も大切なのは、「多様な集団の中で交流する力」つまり「コミュニケーション能力」です。民族や言語、文化や価値観などが自分と異なる相手に、自らの意思も伝えながら上手に折り合いをつけ、紛争(conflict コンフリクト)に陥ることなく「コミュニケーション」をすることは大切な能力です。どうか様々な方法で是非身に付けさせて下さい。

《授業内容の復習―「振り返り」を―》

3. (1)「定着」の前に必ず行うべきことは、「授業」の内容、「試験」の内容についての「振り返り」つまり「やり直すこと」です。もう一度、「授業」の内容を「授業中のノート」と「教科書(テキスト)」や「問題集」、「教材」などを用いて「振り返る」こと、「やり直す」ことです。もう一度、「試験」の内容を「解答」「解説」をゆっくりと読みながら「振り返る」こと、「やり直す」ことです。これを実行させ、身に付けさせて下さい。
- (2)授業内容の「振り返り」「やり直し」で最も大切なものは、「授業中のノート」です。「授業中のノート」を見ながら、その日の授業の流れを思い出し、「教科書(テキスト)」や「問題集」、「教材」を一語一語丁寧にゆっくりと「読み直す」こと。これを実行させ、身に付けさせることが大切です。
- (3)「計算」や「問題」は、必ず「やり直す」こと。「やり直し」てなぜそのような答え、解答になったのかをうんなるほどと「理解」することが一番大事です。
- (4)ここでも、わからない語句が出てきたら、必ず「辞書」を引いてその意味を調べ、それをノートに書き写すこと。これを実行させ、身に付けさせることが大切です。
- (5)以上の作業をさせながら、「ノート整理」を実行させて下さい。「授業中のノート」は、後で勉強して、授業の内容を「理解」し、「定着」させ、「応用」するために「取る」ものであることも教えてあげて下さい。「ノート整理」は、後々の一連の「学習」の大切な「道具」(tool ツール)であることを教えてあげて下さい。色分けをしたり、「」や []、()などでくくったりすることも大切です。1. 2. 3. や(1)、(2)、(3)、①②③④などと分類することも大切であると、ノート整理の方法を具体的に教えてあげて下さい。
- (6)このような手順(プロセス)での「ノート整理」を、授業終了後 10:30 までの時間に行うよう、具体的に指導して下さい。また、自習室での学習内容として、具体的に指示してあげて下さい。「定着のための 3 大練習」に入るのは、この後です。くれぐれも指導の順序を間違えないようにお願いします。
- ＊「学習塾基本調査」では、自習室で自習をしても成績が下がる塾生が存在することが判明しています。それは、「辞書」の活用や「音読」、「書き取り」、「計算・問題練習」などをしていない場合です。「学習の 3 段階理論」を軽視している場合です。授業内容の復習―振り返り―を自習室で必ず実行させて下さい。
- (7)「試験(テスト)」を受けた後も、必ず解答解説を用いながら、もう一回同じ問題をやり直させて下さい。「学校の定期テスト」は問題を持参させ、解答解説の授業を必ず実施した上で、再度同じ問題を「ノート」に解かせて下さい。この後、「辞書調べ」と「ノート整理」を必ずさせて下さい。夜 10 時 30 分までの学習として、また、自習室での学習として、是非、これも実行させて下さい。お願いします。

《まとめ》

4. 「辞書」の活用と、「授業や試験(テスト)内容」の「やり直し」、「ノート整理」を確実に実施すれば、語彙が強化され、学習内容の「理解」が促進されますので、その教科だけでなく全教科の学力向上に必ず直結します。
- (1)これらの方法で「理解」を行った後に「定着のための 3 大練習」を実行させれば、学力の飛躍的向上に直結します。
- (2)「定着のための 3 大練習」の後に「過去問 5 年分、5 回」「間違いノートやまとめノートの作成」をすれば、誰でもトップ校合格が果たせます。
- (3)「理解」を抜きに「定着のための 3 大練習」をしても、学力はあまり向上しません。まして、「過去問」をやっても学力が向上することはありません。逆に成績が下がる原因、不合格の原因ともなります。このことも明確に塾生に伝えて下さい。

＊以上、スタッフの人数分コピーし、校舎ミーティングで校長が読み上げ、1 項目ずつどうするかを全スタッフと検討し、今日から全クラスで実行に移して下さい。塾生全員の「学力向上」のため、どうかよろしくお願い申し上げます。

林 明夫